

第86回麻布獣医学会 市民公開講座

『^{えがお}愛顔をつくる動物たち』

三橋 英二

愛媛県立とべ動物園園長

全国の動物園や水族館は、展示施設を工夫し積極的に動物本来の能力を引き出す方式（行動展示）を取り入れた結果、入園者が多くなり第3黄金時代を迎えたと言われている。

とべ動物園も平成17年に「県民に愛されるとべ動物園のあり方検討協議会」が設立され、ソフト・ハードの両面から検討され、18年度に開園依頼はじめて行動展示型施設としてレッサーパンダ舎が整備され、飛び地を結ぶ木製の立体橋を歩きかう愛らしい姿が人気を呼んだ。19年度には、オランウータンの森の遊園地、ヒョウの立体頭上展示、白くまピース舎の側面強化ガラスの設置を行ったところ、非常に好評で県内外を問わず連日多くのお客様が来園され、特にオランウータンのスカイウォークは、地上11m

幅20mに設置されたロープを渡る姿に大人も子供も感動と驚きから大きな拍手と歓声が沸きあがり、職員一同開園以来初めて味わう光景でした。21年度はペンギン広場、22年度はライオンの二階建観覧施設・新カワウソ舎がオープンし亚克力板越しに触れ合う子供たち、強化ガラス越しに見るライオンの迫力、亚克力水槽で遊ぶ愛らしい動きのコツメカワウソが目の前で見られ大変好評です。

獣舎の工夫で動物が本来もっている素晴らしい能力が真近で見られるようになりました。一方、施設を生かした職員の来園者に対するガイドも大変重要です。そして来園者の笑顔と喜びが更に職員の活力となっています。



オランウータンスカイウォーク



ペンギン広場

